



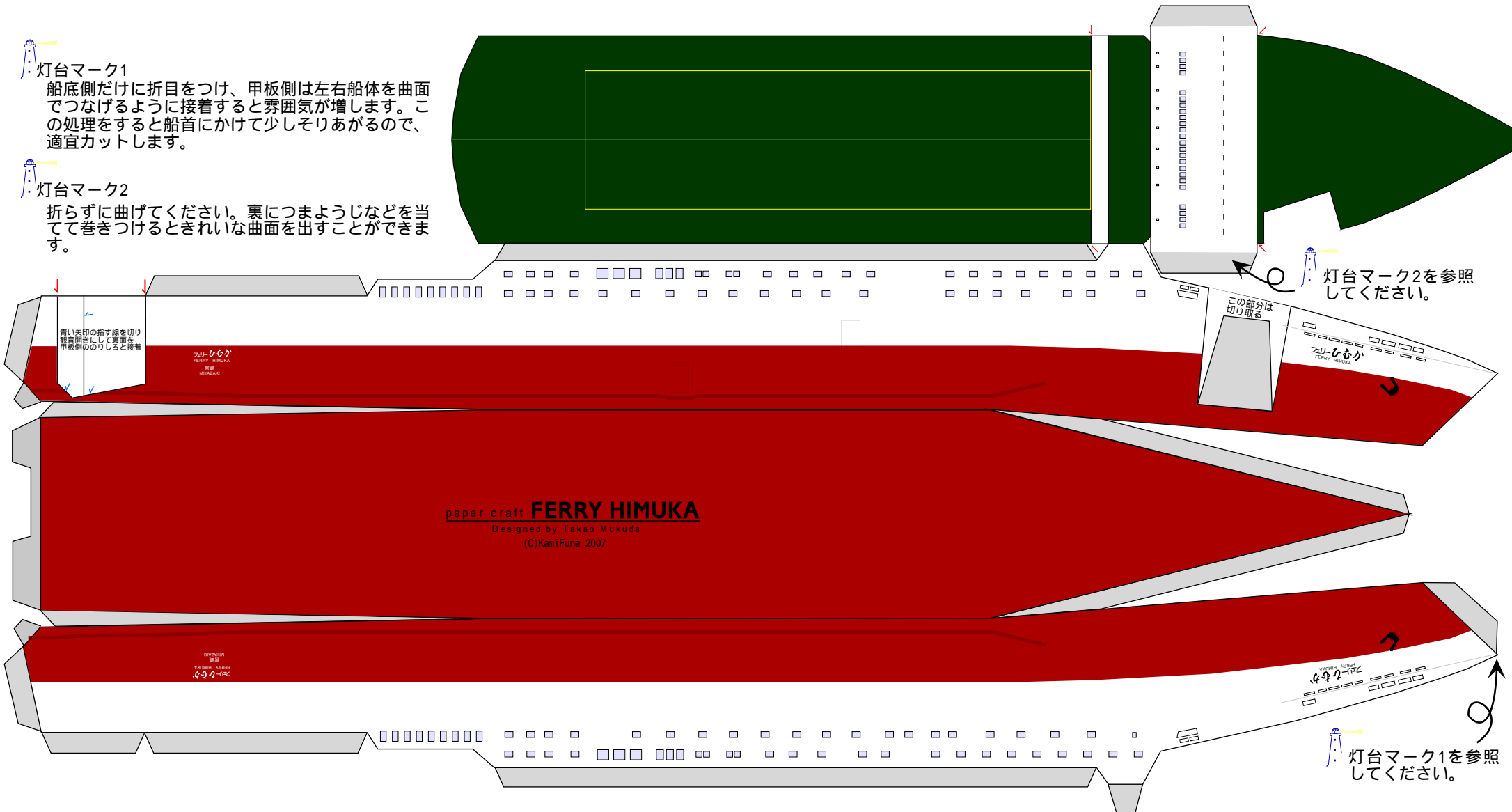
灯台マーク1

船底側に折目をつけ、甲板側は左右船体を曲面でつなげるように接着すると雰囲気が増します。この処理をすると船首にかけて少しそりあがるので、適宜カットします。



灯台マーク2

折らずに曲げてください。裏につまようじなどを当てて巻きつけるときれいな曲面を出すことができます。



ペーパークラフト

フェリーひむか

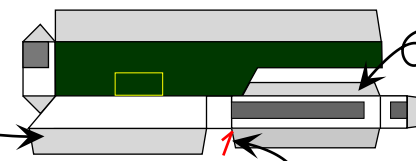
作製時のお願い

- > 刃物の取扱いには充分注意してください。
- > 接着剤を使用するときは換気に留意してください。

黄色線はここに設置する構造物のおおよその示しています。目安にしてください。設置する構造物よりも小さめにひかれています。

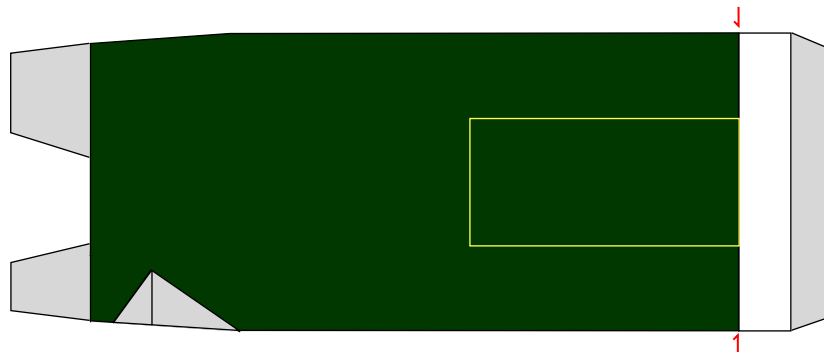
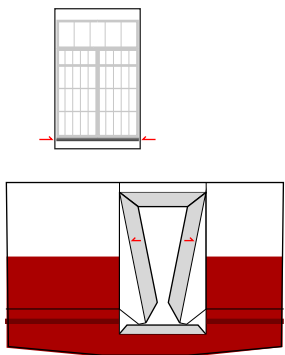


灯台マークの記述は作製のコツです。

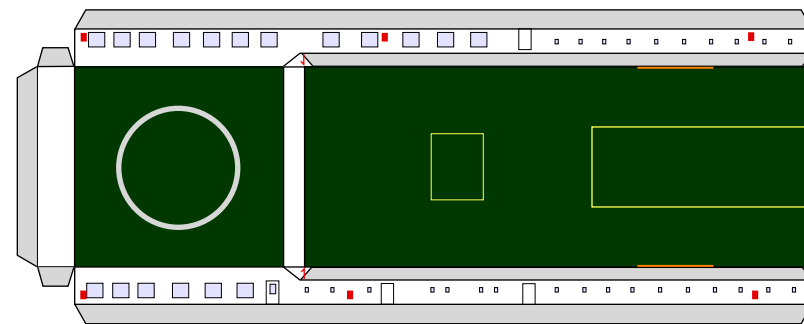


灰色で塗られた部分のはりしるです。対応する部分と接着させてください。

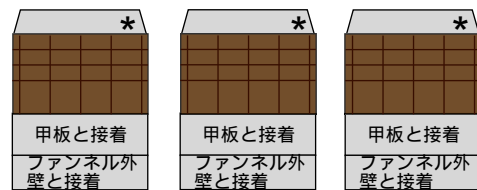
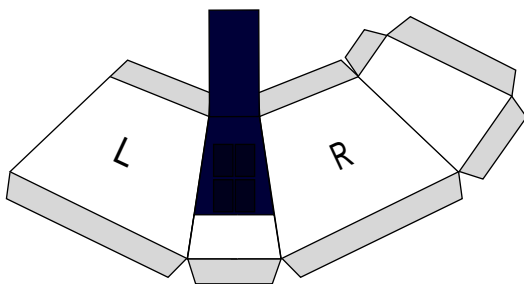
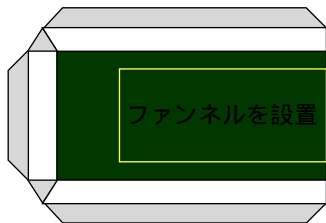
小さな赤色矢印がさしている折線は谷折りにしてください。とくにコメントがない場合はすべて山折り。



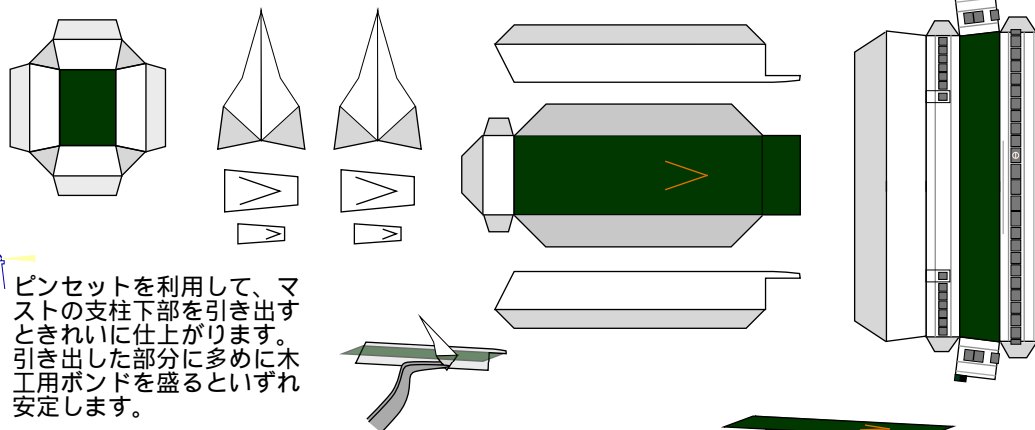
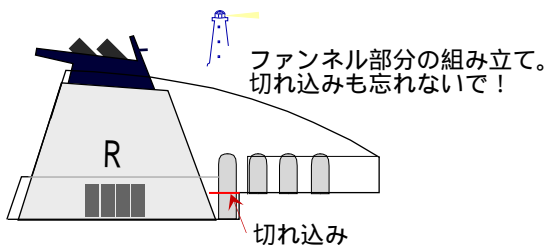
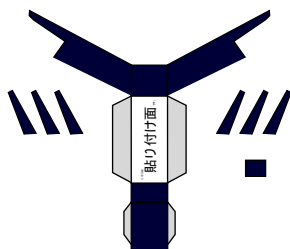
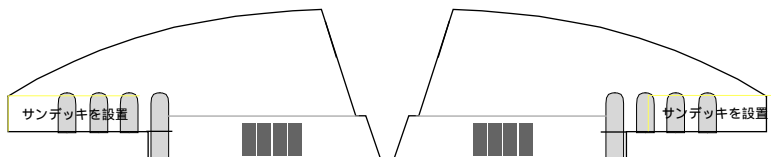
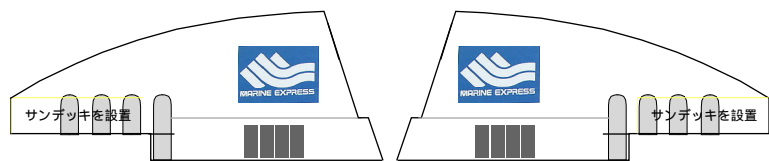
一枚目の船体パーツを完全に組み立てる前に、このパーツ（第4甲板後部）を取り付けておくことを勧めます。巻末「第6甲板と船体側壁を接着する前に...」を参照してください。



船名・航路板を差し込む部分（橙色の線）に切れ込みを入れてください。



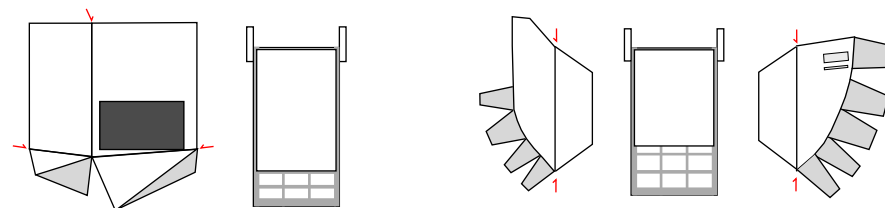
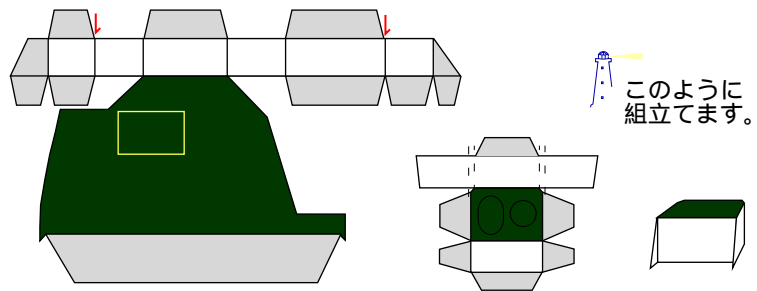
適度に丸みをつけて、このように作製！



ピンセットを利用して、マストの支柱下部を引き出すときれいに仕上がります。引き出した部分に多めに木工用ボンドを盛るといづれ安定します。

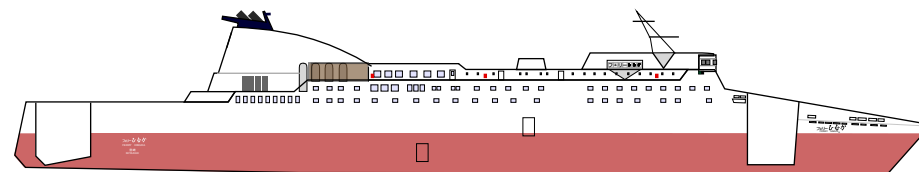
支柱の設置を終えたら、支柱先端から水平になるように差し込んでいきます。このときもピンセットを使うといいでしょう。

下縁が折目にぴったり沿うようにします。

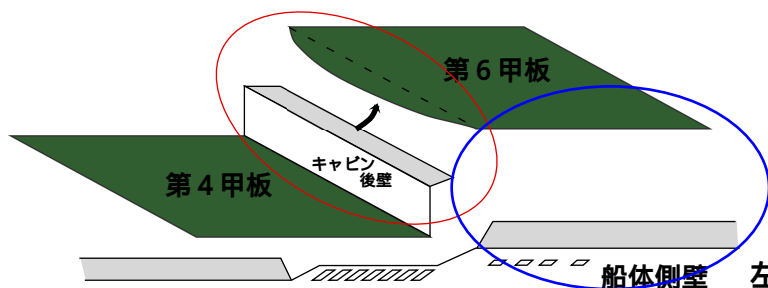


第6甲板と船体側壁を接着する前に...

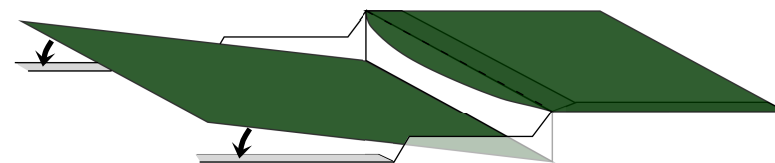
さきにキャビン後壁ののりしろを介して、第4甲板と第6甲板を接着しておくことを勧めます。第4および第6甲板を一連の部品として側壁に接着することで、正しい接着位置を維持し、船体のゆがみを最小限に抑えられます。



第6甲板のアーチ状の後縁と左右の側縁が交わる点どうしを結ぶ直線（図では破線で表わしています）を、第6甲板裏に鉛筆でひきます。こうしてひいた直線にキャビン後壁とのりしろがつくる折目をあわせるときれいに仕上がります。



注) このときはまだ左右どちらの船体側壁とも第6甲板を接着していません。



船体側壁と第4および第6甲板の接着手順は：図のように、第6甲板と左右船体側壁を接着、つづいて、第4甲板と接着します。の時にはとくに船体のゆがみが生じ易いので、側壁がゆがまないように慎重に接着してください。